

第1回 南砺市立病院運営改革委員会

会 議 次 第

日 時：令和元年9月24日（火）

15：00～

場 所：福野庁舎 201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 委員の紹介 (資料1)

4 南砺市立病院運営改革委員会の設置及び委員長の選任について
(資料2)

5 議 題

○ 新南砺市立病院改革プラン平成30年度取組み結果について

・南砺市病院事業会計決算の概要について (資料3)

・公立病院改革プランの実施状況について (資料4-1、4-2)

○ 令和元年度の取組みについて (資料5)

○ 病児保育事業の概要について (資料6)

○ ドクターカーの準備状況について (資料7)

4 そ の 他

5 閉 会

南砺市立病院運営改革委員会関係者名簿

委員 10名

役職	氏名	職名
委員	中山 繁實	南砺市社会福祉協議会 会長
委員	松本 久介	南砺市地域づくり協議会連合会 会長
委員	長瀬 啓介	金沢大学附属病院 病院長補佐 南砺市政策参与
委員	山城 清二	富山大学附属病院 総合診療部 教授 南砺市政策参与
委員	垣内 孝子	富山県砺波厚生センター所長
委員	松 智彦	南砺市医師会長
委員	田中 由利子	独立行政法人国立病院機構 北陸病院 看護部長
委員	武部 範代	南砺市連合婦人会 会長
委員	山口 裕幸	公募委員
委員	長谷川 邦子	公募委員

市当局 15名

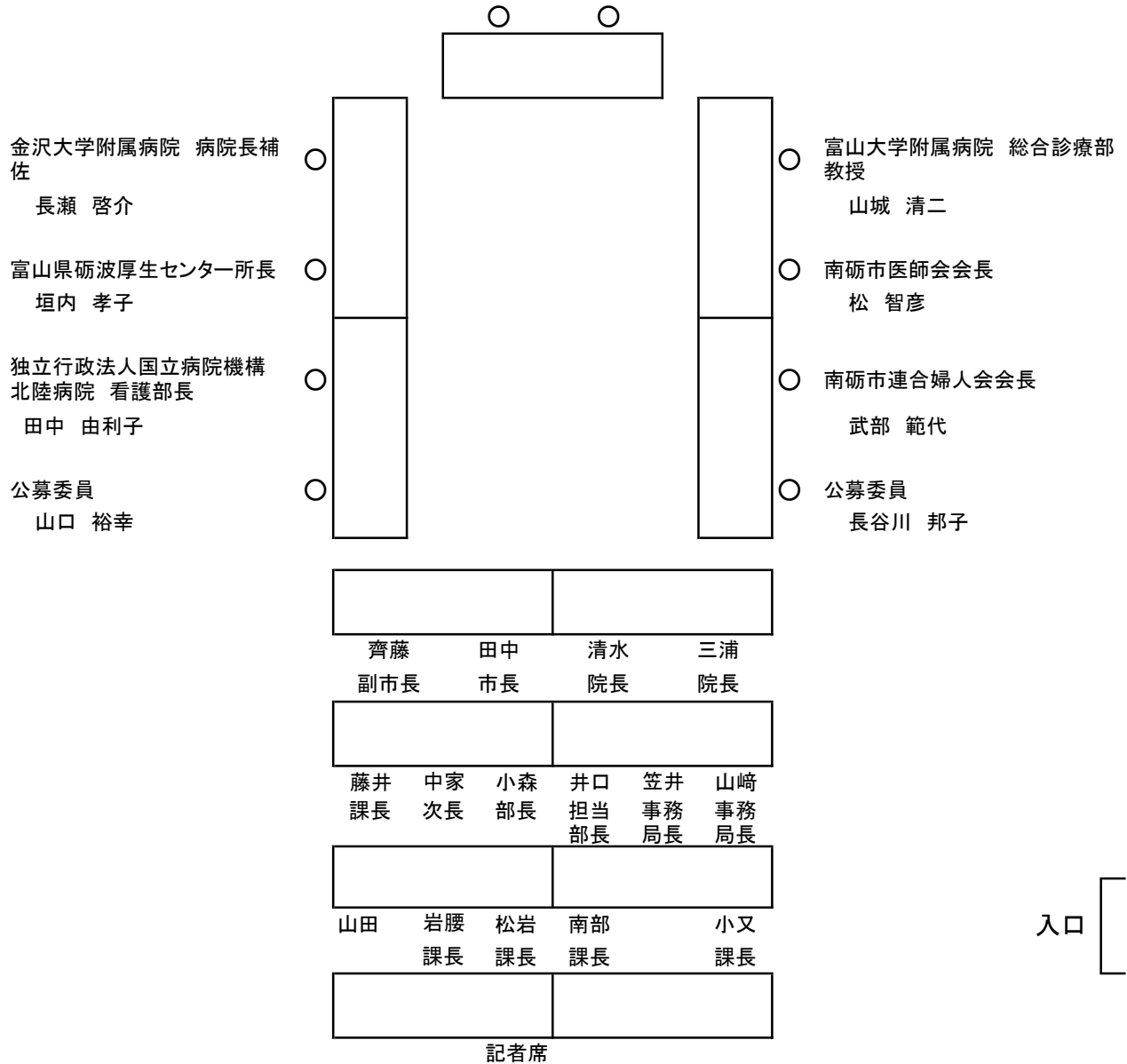
田中市長	
齊藤副市長	
清水南砺市民病院長	
三浦公立南砺中央病院長	
小森地域包括医療ケア部長	
井口地域包括医療ケア部担当部長	
中家地域包括医療ケア部次長	
笠井市民病院事務局長	
山崎中央病院事務局長	
松岩市民病院務総課長	
南部中央病院総務課長	
岩腰市民病院医事課長	
小又中央病院医事課長	
藤井医療課長	
山田医療課課長補佐	

第1回 南砺市立病院運営改革委員会

出席者配席図

(南砺市役所福野庁舎 201会議室)

南砺市地域づくり協議会連合会会長 南砺市社会福祉協議会会長
松本 久介 中山 繁實



南砺市立病院運営改革委員会設置規程

(目的)

第1条 南砺市立病院(南砺市民病院及び公立南砺中央病院をいう。以下同じ。)が地域において必要な医療を安定かつ継続的に提供していくため、新南砺市立病院改革プラン(以下「改革プラン」という。)に基づき、その着実な推進と進捗状況の点検・評価を行う南砺市立病院運営改革委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 改革プランの推進、推進状況の点検、評価及び見直しに関する事項
- (2) その他南砺市立病院の経営改善に関し必要があると認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 医療政策に指導的立場に立つ医療関係者
- (2) 砺波医療圏における医師または看護師等が組織する団体の代表者
- (3) 市民が組織する団体の代表者
- (4) その他学識経験を有する者
- (5) 行政関係者
- (6) 公募による者
- (7) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は委員会を代表し、委員会を総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名したものがその職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明及び意見を聴くことができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、地域包括医療ケア部医療課内に置く。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この訓令は、平成29年5月8日から施行する。

(任期の特例)

2 この訓令の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、条例3条の規定にかかわらず、その委嘱の日から平成31年3月31日までとする。

(招集の特例)

3 最初の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

平成30年度 南砺市病院事業会計決算の概要

南砺市医療課

病院事業全体

医業収益は前年度より280,023千円(5.4%)増の5,500,500千円、医業費用は前年度より237,040千円(4.1%)増の6,052,591千円、医業外費用は5,018千円(1.9%)減の263,202千円となり、中央病院3階病棟の転換に伴う特別損失が5,598千円となりましたが、平成30年度損益は109,805千円の純利益となりました。前年度7,566千円の黒字からさらに102,240千円収益が改善し、初めて2病院そろっての黒字となりました。

単位:千円

	南砺市民病院	公立南砺中央病院	病院統括事業	病院事業計
医業収益	3,287,905	2,212,595		5,500,500
医業費用	3,526,493	2,496,384	29,714	6,052,591
(医業損益)	▲ 238,588	▲ 283,789	▲ 29,714	▲ 552,091
医業外収益	421,349	478,337	31,010	930,696
医業外費用	129,107	129,689	4,406	263,202
経常損益	53,654	64,859	▲ 3,110	115,403
特別損失	0	5,598		5,598
当年度純損益	53,654	59,261	▲ 3,110	109,806
(参考:平成29年度)	43,668	▲ 33,938	▲ 2,164	7,566

南砺市民病院

30年度の延患者数は、入院が55,091人、外来が93,647人で、前年度に比べ入院が449人(0.8%)増加、外来が5,742人(-5.8%)減少し、一日平均患者数は、前年度に比べ入院が1.2人増加、外来が23.5人の減少となりました。

入院患者数の増加により、病床稼働率は85.5%から86.2%に増加しました。診療科別では、内科、外科及びリハビリテーション科の入院患者が増加し、整形外科、リハビリテーション科及び透析の外来患者が減少しています。

収益的収支では、収入総額が3,709,254,537円で、前年度に比べ175,635,357円(5.0%)増となっています。内訳は医業収益が136,184,047円増、医業外収益が39,451,310円増となっています。医業収益増の主な要因として、入院収益が8.3%増となったことが挙げられます。また、収入に占める他会計補助金は414,750,000円で、前年度に比べ38,525,000円増となっています。

一方、支出総額は3,655,599,734円で、前年度に比べ165,648,795円(4.7%)増となっています。内訳は医業費用が173,658,878円増、医業外費用が667,590円減となっています。医業費用増の主な要因として、給与費、材料費(薬品費)及び経費(諸会費)の増が挙げられます。

この結果、前年度と比較して医業収支は37,474,831円悪化しましたが、病院事業収支は9,986,562円好転し、純損益は53,654,803円の黒字となりました。また、新南砺市立病院改革プランの計画値に対しては、純損益で37百万円上回りました。

公立南砺中央病院

30年度の延患者数は、入院が45,132人、外来が73,393人で、前年度に比べ入院が856人(1.9%)、外来が3,277人(4.7%)それぞれ増加し、一日平均患者数は、前年度に比べ入院が2.3人、外来が13.4人それぞれ増加となりました。

診療科別では、入院患者は、整形外科が増加、外来患者は整形外科、小児科、耳鼻咽喉科が増加しています。

収益的収支では、収入総額が2,690,931,995円で、前年度に比べ150,089,450円(5.9%)増となっています。内訳は医業収益が143,839,353円増、医業外収益が6,250,097円増となっています。医業収益増の主な要因として、入院収益、外来収益とも6.9%増となったことが挙げられます。また、収入に占める他会計補助金は465,703,000円で、前年度に比べ1,685,000円の減となっています。

一方、支出総額は2,631,671,121円で、前年度に比べ56,890,940円(2.2%)増となっています。内訳は医業費用が62,505,840円増、医業外費用が8,251,215円減、特別損失が2,636,315円増となっています。医業費用増の主な要因として、給与費、材料費(診療材料費)、経費(修繕費)及び減価償却費の増が挙げられます。また、特別損失増の主な要因は、3階病棟の転換に伴う器械備品処分に係る固定資産売却損によります。

この結果、前年度と比較して医業収支は81,333,513円、病院事業収支は93,198,510円好転し、純損益が59,260,874円の黒字となりました。また、新南砺市立病院改革プランの計画値に対しては、純損益で258百万円上回りました。

プランの名称		新南砺市立病院改革プラン										
策定日		平成29年3月23日										
病院の現状	病院名	南砺市民病院										
	所在地	南砺市井波938番地										
	病床数	許可病床	175	床	(うち一般175床)							
		稼働病床	175	床	(うち一般175床)							
	現在の経営形態	公営企業法財務適用										
診療科目	内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科(人工透析)、糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、肛門外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、病理診断科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科											
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	医療機能等指標に係る数値目標	1)医療機能・医療品質に係るもの	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考	
		救急患者数(人)	3,738	3,540	3,609	3,620	3,408	▲ 212	3,630	3,640		
		手術件数(件)	654	586	655	800	696	▲ 104	800	800		
		患者紹介(転入)延べ件数(件)	2,333	2,499	2,619	2,360	2,511	151	2,370	2,380		
		患者逆紹介(転出)延べ件数(件)	1,586	1,704	1,927	1,610	1,822	212	1,620	1,630		
		在宅復帰率(回復期病床・%)	97.6	99.4	95.8	97.0	94.9	▲ 2.1	97.0	97.0		
		在宅復帰率(地域包括ケア病床・%)	87.6	79.9	83.7	84.0	80.4	▲ 3.6	84.0	84.0		
	2)患者満足度(%)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
	診療(検査・治療)内容	98.7	97.9	98.6	99.0	99.2	0.2	99.0	99.0			
	入院中の看護内容	99.0	98.8	98.9	99.0	99.4	0.4	99.0	99.0			
	受付窓口の接客態度	98.8	98.8	99.0	99.0	99.0	0.0	99.0	99.0			
	食事の内容	96.3	95.7	95.0	96.6	96.1	▲ 0.5	96.7	96.8			
	経営指標に係る数値目標	1)収支改善に係るもの	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考	
			経常収支比率(%)	96.4	98.2	101.5	100.5	101.5	1.0	100.2	100.1	
			医業収支比率(%)	89.1	90.6	94.0	92.6	93.2	0.6	92.9	93.1	
不良債務比率(%)			▲ 33.1	▲ 34.8	▲ 36.8	▲ 35.7	▲ 40.6	▲ 4.9	▲ 39.9	▲ 43.7		
2)経費削減に係るもの		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
		診療材料費の対医業収益比率(%)	14.2	13.8	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	14.2		
		委託費の対医業収益比率(%)	9.9	10.3	9.9	10.5	10.1	▲ 0.4	10.5	10.4		
		人件費の対医業収益比率(%)	73.0	71.5	67.9	70.1	68.2	▲ 1.9	70.2	69.9		
3)収入確保に係るもの		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
		1日当たり入院患者数(人)	134.3	140.3	149.7	138.3	150.9	12.6	138.3	138.3		
		1日当たり外来患者数(人)	410.1	407.2	407.3	412.0	383.8	▲ 28.2	412.0	413.0		
		病床利用率(%)	76.7	80.2	85.5	79.0	86.2	7.2	79.0	79.0		
4)経営の安定性に係るもの		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
		平均在院日数(日)	14.4	14.5	14.8	15.0	15.1	0.1	15.0	15.0		
		常勤医師数(人)	21	21	23	23	25	2	24	24	H29:放射線科医 H30:整形外科医の2 名体制 H31:循環器内科医	
		現金保有残高(百万円)	1,077	1,128	1,303	1,283	1,402	119	1,401	1,527		
上記目標数値設定の考え方		地域住民の医療体制の確保及び医療の提供を図るとともに、当院の医療資源を有効に活用した経営の効率化と収支改善の観点により、上記数値目標を設定した。 新病院改革プラン対象期間である平成32年度までのうち、平成30年度以降は経常黒字となることを目指し、上記数値目標を設定している。(平成29年度に経常黒字を達成した)										

経営の効率化 数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績	民間的経営手法の導入	計画 1)2年ごとに改訂される診療報酬にかかる情報の収集及び当院として増益となる部分の検証を進める。 2)職員個々に経営意識を持たせるための職員研修を実施する。 3)人事評価制度により、職員の目標設定の明確化と意識改革を図り、職員資質向上を図る。	実績 1)H30診療報酬改定により、情報収集及び当院として増益になる部分の検証を行い、順次届け出を行った。 2)H30診療報酬改定説明会を実施した。 3)人事評価を導入することにより、職員の資質向上を図った。
	事業規模・形態の見直し	計画 1)在宅復帰のため回復期医療を充実する。(医師、看護師、他の多職種による医療チーム活動の充実、土日でのリハビリの拡充等) 2)診療報酬の改定に伴い、7対1看護体制の継続可能等の見直しを検討する。 3)重症患者管理の向上のため、ハイケアユニット(HCU)病床の設置を検討する。	実績 1)患者総合支援センターが患者とその家族が入院から退院まで、そして退院後も、安心・安全に医療サービスが継続して受けられ、再び地域で生活していただけるよう、切れ目のない支援を行った。また、多職種による退院カンファレンスを週1回以上実施した。 2)7対1看護体制を継続した。 3)未実施
	経費削減・抑制対策	計画 1)2病院4診療所の統一可能な経費及び委託業務等で、スケールメリットを活かした経費削減策を検討する。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置を考慮し、人件費抑制を進める。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努める。 4)診療材料費のSPDと共同購入事業の参画により、より安価な商品の導入を進める。 5)事務部門等の集約化を図り、人件費・施設管理費などの抑制に努める。 6)施設や設備の整備については、将来的に診療科などの部門集約や共有化を図っていく方向にあることから、更新等に際しては必要最少限のものにとどめ、経費抑制に努める。	実績 1)施設設備修繕計画及び医療機器更新計画を策定した。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置に努めた。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努めた。(使用率H29年89.8%→H30年92.3%) 4)H30は6,600千円の削減となり、前年比較947千円増加した。商品採用率は約70%であった。今後、更に安価な商品の採用を進めていく。 5)委託業務・賃貸借契約の一本化が可能な業務の検証と事務系業務一覧の作成等、事務部門の集約化を協議、今後も進めていく。 6)医療機器については、医療材料医療機器購入委員会で精査し、必要最小限の更新を行った。
	収入増加・確保対策	計画 1)常勤医師増員に努め、病棟運営に必要な看護師の確保により患者受入体制を整え、稼働率を向上し収益の増を図る。 2)回復期リハビリ病床と地域包括ケア病床による回復期機能の強化により、入院収入の増を図る。 3)診療報酬の改定による加算点数の解析を行い、当院での現状と対策を検討する。 4)近隣病院と連携し、DPCデータの解析を行い、DPC機能評価係数の解析を進め、当院のベンチマークを確認し、収支改善を図る。	実績 1)病床利用率は86.2%で計画に比べ7.2%の増となった。 2)病床利用率は回復期リハビリ病床で86.4%(前年83.1%)、地域包括ケア病床で87.2%(前年82.1%)となった。 3)H30診療報酬の改定による、加算点数の解析を各部署単位で取り組んだ。 4)近隣病院と連携し、H27年度のDPCデータの解析を行った。DPC機能評価係数の解析を進め、当院のベンチマークを確認した。月1回経営会議で現状分析を行い、課題と対策を協議した。
	その他	計画 1)初期研修医の基幹病院として、人材の育成・教育の他、専門医の育成、学生の受け入れを進め、研修医等に選ばれる病院を目指す。 2)病院機能評価を受審し、当院の病院機能の堅持・向上を行い、患者に信頼される病院を目指す。	実績 1)初期研修医2名を受け入れた。 2)H28年度に病院機能評価を受審し、組織全体の運営管理及び提供される医療について認定を受けた。

各項目における実績の分析と自己評価	地域医療構想を踏まえた役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者数は、整形外科常勤医師が2名から1名となったこともあり、救急患者を受け入れできず計画より212人減となった。 ・手術件数は、整形外科の件数が109件減少したが、外科で76件、泌尿器科で50件増加するなど前年より計31件増加した。 ・患者紹介(転入)は計画に比べ151件の増となった。また、患者逆紹介(転出)は計画に比べ212件の増となった。病院、診療所からの紹介・逆紹介が増加したことが要因であった。これからも地域医療を支える病院として医療機関等との連携の強化を進めていきます。 ・回復期病床の在宅復帰率及び地域包括ケア病床の在宅復帰率は、医療スタッフは努力したものの計画値に届かなかった。 ・患者満足度については、医療スタッフの努力により、ほぼ計画値に近い結果となった。 <p>※以上のことから、概ね計画にあげた目標数値となっており、計画は順調に進んでいる。</p>
	経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数は計画値より数値が下回ったが、内科、外科の入院患者数の増加により、入院患者数及び病床利用率は計画値より数値が上回った。 ・病床利用率の増により料金収入はほぼ計画どおりとなり、医業収益は計画値より数値が上回った。また、人件費を前年度とほぼ同額に抑制することができ医業費用は計画値より大幅に削減できたため、経常収支比率・医業収支比率は目標を達成した。 ・平成30年3月1日から病棟機能変更することにより地域包括ケア病棟入院料1を算定。 ・地域のニーズに合った医療機能の強化や収益の確保に努めるとともに施設の維持管理を行いながら、経費の削減に引き続き取り組み、健全経営に向けた一層の努力を重ねていきます。 <p>※以上のことから、不断の経営努力により、H30年度の経常損益は黒字となった。</p>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺市立病院運営改革委員会を設置、平成30年8月30日、平成31年3月28日に開催した。また、会議の資料及び議事録を南砺市のホームページに掲載した。

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

年度		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収 入	1. 医 業 収 益 a	2,992	2,990	3,152	3,251	3,288	37	3,257	3,269
	(1) 料 金 収 入	2,812	2,801	2,958	3,075	3,102	27	3,080	3,090
	(2) そ の 他	180	189	194	176	186	10	177	179
	うち他会計負担金	38	38	38	38	38	0	38	38
	2. 医 業 外 収 益	379	377	382	400	422	22	389	383
	(1) 他会計負担金・補助金	328	330	338	348	377	29	336	330
	(2) 国(県)補助金	13	12	11	11	14	3	11	11
	(3) 長期前受金戻入	23	21	19	19	20	1	18	18
	(4) そ の 他	15	14	14	22	11	▲ 11	24	24
	経 常 収 益 (A)	3,371	3,367	3,534	3,651	3,710	59	3,646	3,652
支 出	1. 医 業 費 用 b	3,359	3,299	3,353	3,510	3,527	17	3,506	3,511
	(1) 職 員 給 与 費 c	2,183	2,138	2,139	2,280	2,244	▲ 36	2,285	2,285
	(2) 材 料 費	426	412	450	465	470	5	465	465
	(3) 経 費	455	456	479	479	530	51	480	480
	(4) 減 価 償 却 費	277	276	266	265	264	▲ 1	255	260
	(5) そ の 他	18	17	19	21	19	▲ 2	21	21
	2. 医 業 外 費 用	137	129	130	124	129	5	134	138
	(1) 支 払 利 息	61	57	53	48	48	0	48	45
	(2) そ の 他	76	72	77	76	81	5	86	93
	経 常 費 用 (B)	3,496	3,428	3,483	3,634	3,656	22	3,640	3,649
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	▲ 125	▲ 61	51	17	54	37	6	3	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)								
	2. 特 別 損 失 (E)			7			0		
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	▲ 7	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)	▲ 125	▲ 61	44	17	54	37	6	3	
累 積 欠 損 金 (G)	1,593	1,654	1,610	1,791	1,556	▲ 235	1,785	1,782	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	1,569	1,659	1,803	1,764	1,981	217	1,886	2,016
	流 動 負 債 (イ)	579	617	643	602	646	44	588	587
	うち一時借入金								
	翌年度繰越財源(ウ)								
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 差引 不 良 債 務 (オ) [(イ)-(エ)]-[(ア)-(ウ)]	▲ 990	▲ 1,042	▲ 1,160	▲ 1,162	▲ 1,335	▲ 173	▲ 1,298	▲ 1,429
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	96.4	98.2	101.5	100.5	101.5	1.0	100.2	100.1	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	▲ 33.1	▲ 34.8	▲ 36.8	▲ 35.7	▲ 40.6	▲ 4.9	▲ 39.9	▲ 43.7	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	89.1	90.6	94.0	92.6	93.2	0.6	92.9	93.1	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	73.0	71.5	67.9	70.1	68.2	▲ 1.9	70.2	69.9	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	▲ 990	▲ 1,042	▲ 1,160	▲ 1,162	▲ 1,335	▲ 173	▲ 1,298	▲ 1,429	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	▲ 33.1	▲ 34.8	▲ 36.8	▲ 35.7	▲ 40.6	▲ 4.9	▲ 39.9	▲ 43.7	
病 床 利 用 率 (一 般 病 床)	76.7	80.2	85.5	79.0	86.2	7.2	79.0	79.0	

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
区分									
収 入	1. 企業債	92	44	43	45	43	▲ 2	217	45
	2. 他会計出資金	193	200	205	233	220	▲ 13	204	188
	3. 他会計負担金								
	4. 他会計借入金								
	5. 他会計補助金								
	6. 国(県)補助金	4	5	3		0	0	50	3
	7. その他								
	収入計 (a)	289	249	251	278	263	▲ 15	471	236
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
純計(a)-(b)+(c) (A)	289	249	251	278	263	▲ 15	471	236	
支 出	1. 建設改良費	99	52	52	50	51	1	278	50
	2. 企業債償還金	300	313	347	375	377	2	336	323
	3. 他会計長期借入金返還金								
	4. その他								
支出計 (B)	399	365	399	425	428	3	614	373	
差引不足額 (B)-(A) (C)	110	116	148	147	165	18	143	137	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	110	116	148	147	165	18	143	137
	2. 利益剰余金処分量								
	3. 繰越工事資金								
	4. その他								
計 (D)	110	116	148	147	165	18	143	137	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)									
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収益的収支	(164) 366	(171) 368	(153) 376	(152) 386	(184) 415	(32) 29	(138) 374	(132) 368
資本的収支	193	200	205	233	220	(0) ▲ 13	204	188
合計	(164) 559	(171) 568	(153) 581	(152) 619	(184) 635	(32) 16	(138) 578	(132) 556

(注)

1 ()内はうち基準外繰入金額

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう

プランの名称		新南砺市立病院改革プラン										
策定日		平成29年3月23日										
病院の現状	病院名	公立南砺中央病院										
	所在地	南砺市梅野2007番地5										
	病床数	許可病床	(190) 149	床	(うち一般145床 療養45床)H30.3.20、3階病棟41床廃止							
		稼働病床	149	床	(うち一般104床 療養45床)							
	現在の経営形態	公営企業法財務適用										
診療科目	内科 心療内科・精神科 呼吸器科 循環器科 小児科 外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 消化器科 リハビリテーション科 放射線科											
地域医療構想を踏まえた役割の明確化	医療機能等指標に係る数値目標	1)医療機能・医療品質に係るもの	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考	
		救急患者数(人)	1,543	1,329	1,424	1,740	1,366	▲ 374	1,920	1,920		
		手術件数(件)	405	450	447	470	547	77	520	520		
		患者紹介(転入)件数(人)	1,685	1,667	1,557	1,841	1,484	▲ 357	1,896	1,953		
		患者逆紹介(転出)件数(人)	1,000	1,078	988	1,093	1,148	55	1,126	1,159		
	在宅復帰率(地域包括ケア病床・%)		90.3	86.7	86.0	88.9	2.9	86.0	86.0			
	2)患者満足度(%)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
	診療(検査・治療)内容について	98.1	98.4	97.6	98.4	97.9	▲ 0.5	98.5	98.6			
	入院中の看護内容について	98.1	98.8	98.5	98.4	98.4	0.0	98.5	98.6			
	受付窓口の接客態度について	98.2	98.2	97.8	98.5	98.2	▲ 0.3	98.6	98.7			
	食事の内容について	94.1	96.5	95.2	94.4	92.0	▲ 2.4	94.5	94.6			
	経営指標に係る数値目標	1)収支改善に係るもの	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考	
			経常収支比率(%)	91.9	97.9	98.8	92.4	102.5	10.1	98.5	100.2	
			医業収支比率(%)	78.6	84.3	85.0	83.1	88.6	5.5	90.7	92.5	
			不良債務比率(%)	3.5	▲ 4.7	▲ 9.3	0.6	▲ 16.0	▲ 16.6	3.1	7.3	
累積欠損金比率(%)		202.9	194.0	187.6	202.7	172.8	▲ 29.9	200.6	197.6			
2)経費削減に係るもの		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
		材料費の対医業収益比率(%)	15.5	14.8	14.5	14.7	14.7	0.0	14.4	14.2		
		委託費の対医業収益比率(%)	13.9	13.8	12.9	12.8	12.5	▲ 0.3	12.6	12.4		
		職員給与費の対医業収益比率(%)	72.3	67.4	66.0	69.2	63.1	▲ 6.1	68.4	67.4		
減価償却費の対医業収益比率(%)		17.0	15.8	15.9	15.7	15.0	▲ 0.7	7.2	6.5			
3)収入確保に係るもの		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
		1日当たり入院患者数(人)	107.8	113.8	121.3	77.0	87.0	10.0	79.0	81.1	※H30から4・5Fのみ	
		1日当たり老健入所者数(人)				41.4		▲ 41.4	41.4	41.4	※H30から6階転換	
		1日当たり外来患者数(人)	284.6	284.9	287.4	290.0	300.8	10.8	293.0	295.0		
		一般病床利用率(%)	47.0 (68.9)	53.5 (74.5)	57.8 (80.6)	75.0	83.6	8.6	77.0	79.0	※H30から3階廃止 () 病床病床除く	
		療養病床利用率(%)	79.2	80.6	83.2		81.5				※H29で廃止	
		老健施設利用率(%)				92.0		▲ 92.0	92.0	92.0	※6階転換	
平均在院日数(日)		19.9	11.7	12.1	14.0	12.1	▲ 1.9	14.0	14.0	※H28からは5Fのみ		
4)経営の安定性に係るもの		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	備考		
		常勤医師数(人)	9	9	10	10	10	0	11	11		
	現金保有残高(百万円)	192	313	496	264	580	316	210	170			
企業債残高(百万円)	4,350	4,063	3,838	3,493	3,552	59	3,333	3,053				
上記目標数値設定の考え方	<p>地域住民の医療体制の確保及び医療の提供を図るとともに、当院の医療資源を有効に活用した経営の効率化と収支改善の観点により、上記数値目標を設定した。</p> <p>なお、6階病棟は、H30年度より老健施設等としての目標値を設定した。</p> <p>新病院改革プラン対象期間中である平成32年度までに経常黒字を目指し、上記数値目標を設定している。</p>											

経営の効率化 数値目標達成に向けての具体的な取組計画及び実績	民間的経営手法の導入	計画 1)2年ごとに改訂される診療報酬にかかる情報の収集及び当院として増益となる部分の検証を進める。 2)職員個々に経営意識を持たせるための職員研修を実施する。 3)人事評価制度により、職員の目標設定の明確化と意識改革を図り、職員資質向上を図る。	実績 1)H30度改定に伴う施設基準の届出を適正に行った。 2)職員向けに診療報酬改定説明会を実施した。また、毎月の部門長会議では、収支状況の説明を行った。 3)H28から病院正職全職員を対象とし人事評価を開始し、職員資質向上を図った。
	事業規模・形態の見直し	計画 1)H28年度からの地域包括ケア病床の開設に伴い、回復期機能を充実する。 2)当市は、当分の期間は老年人口の割合が4割を超える状況が続くと見込まれることから、6階療養病棟及び3階休止病棟を機能転換し、住民ニーズに沿った介護サービス等を提供できる病院を目指す。	実績 1)H30度改定で、施設基準要件が見直され、地域包括ケア病棟入院基本料2にランクダウンとなった。4階の地域包括ケア病床は、H29年に比べ病床稼働率2.1%減、入院患者数404人の減となった。 2)H30年改定で療養病床入院基本料の再編・統合が行われた。介護療養病棟は、R6年3月に廃止が決まった。
	経費削減・抑制対策	計画 1)2病院4診療所の統一可能な経費及び委託業務等で、スケールメリットを活かした経費削減策を検討する。 2)病院機能及び安全対策を確保しながら人員の適正配置を考慮し、人件費抑制を進める。 3)後発医薬品を積極的採用し、薬品費の削減に努める。 4)診療材料費のSPDと共同購入事業の参画により、より安価な商品の導入を進める。 5)事務部門等の集約化を図り、人件費・施設管理費などの抑制に努める。 6)施設や設備の整備については、将来的に診療科などの部門集約や共有化を図っていく方向にあることから、更新等に際しては必要最小限のものにとどめ、経費抑制に努める。	実績 1)施設設備修繕計画及び医療機器更新計画を策定した。 2)常勤内科医も不足しており、今後も適正な人員確保に努め、人件費抑制にも努める。 3)後発医薬品の使用促進により、H29年比1,403千円の減額となった。後発医薬品の使用率は、H29年76.8%→H30年86.0% 4)H30は2,115千円の削減となった。商品採用率は76.9%であり、今後、更に商品の採用率を高めていく。 5)委託業務・賃貸借契約の一本化が可能な業務の検証と事務系業務一覧の作成等、事務部門の集約化を協議、今後も進めていく。 6)診療設備導入計画に基づき、病院機能を維持するために必要最小限の診療設備の導入・更新を行う。H30器械備品購入額32,496千円(人工膝関節用ナビゲーションシステム等)
	収入増加・確保対策	計画 1)常勤医師増員に努め、病棟運営に必要な看護師の確保により患者受入体制を整え、稼働率を向上し収益の増を図る。 2)地域包括ケア病床による回復期機能の強化により、入院収入の増を図る。 3)診療報酬の改定による加算点数の解析を行い、当院での現状と対策を検討する。	実績 1)常勤医師は計画どおり10人確保し、看護師は7人採用、4人退職の3人増となった。病床稼働率はH29年81.4%、H30年83.0%と1.6%増加となった。 2)H29に比べ、入院患者数は856人増加となり、入院収益は94,842千円の増となった。 3)未実施。
	その他	計画 1)常に患者の意見を業務に反映できる体制づくりを行い、患者の満足度と信頼度の高い病院を目指す。	実績 1)退院アンケートの結果は、満足度が計画数より若干下がったが近い数値となっている。患者の意見を参考に満足度の高い病院を目指していく。H30アンケート件数821件、投書件数26件

各項目における実績の分析と自己評価	地域医療構想を踏まえた役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・救急患者数については、計画数より374件減の1,366件となった。救急搬送者は511件でH29実績よりも64件増加、家族等の搬送は、855件でH29実績よりも122件減少、H29実績よりも58件減少となった。 ・手術件数については、特に整形外科の手術件数が全体の86%を占めており、前年度より100件増加し、計画を超える数値となっている。 ・患者紹介(転入)は計画に比べ357件の減となった。診療所や介護老人保健施設からの紹介件数が減少したことが要因であった。また、患者逆紹介(転出)は計画に比べ55件の増となった。病院、診療所への逆紹介がいずれも増加したことが要因であった。これからも地域医療を支える病院として医療機関や介護施設等との連携を一層強化することで適正な患者紹介・患者逆紹介に努めたい ・在宅復帰率は地域包括ケア病棟入院基本料の施設要件であり70%以上が必要である。入退院支援に携わる医療スタッフの努力により計画の86.0%に比べ2.9%増の88.9%となった。 ・患者満足度については、患者に対する医療スタッフの日々の努力が計画数に近い数値を出しているものとする。 <p>※以上のことから、概ね計画にあげた目標数値を達成しており、計画は順調に進んでいる。</p>
	経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年4月から4階一般病棟(52床)を地域包括ケア病床に転換したことにより、入院患者数が増加している。病床稼働率は81.4%→83.0%と1.6%増となり、入院収益も増収となった。費用については、給与費の増、入院患者増に伴う診療材料費の増、修繕費の増となったが、入院・外来の患者数の増により、純損益が5千9百万円の黒字となった。 ・入院患者数は整形外科の患者数の増加、外来患者数も整形外科、小児科、耳鼻咽喉科が増加となった。 ・企業債残高については、H29のピークが過ぎ、毎年約3億の元金を順調に返済している。 ・費用について、医療機器の購入、診療材料の共同購入など節減に努めてはいるもののまだ節減の余地は見て取れるため、いっそうの経費節減が必要である。 <p>※以上のことから、不断の経営努力により、H30年度の収益は改善した。</p>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南砺市立病院運営改革委員会を設置、平成30年8月30日、平成31年3月28日に開催した。また、会議の資料及び議事録を南砺市のホームページに掲載した。

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

年度		年度							
		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収 入	1. 医 業 収 益 a	1,871	1,983	2,069	2,074	2,212	138	2,114	2,144
	(1) 料 金 収 入	1,763	1,870	1,960	1,961	2,094	133	2,001	2,031
	(2) そ の 他	108	113	109	113	118	5	113	113
	うち他会計負担金	36	36	36	36	36	0	36	36
	2. 医 業 外 収 益	447	450	472	350	479	129	322	317
	(1) 他会計負担金・補助金	429	432	431	316	430	114	294	292
	(2) 国(県)補助金	3	2	3		2	2	3	3
	(3) 長期前受金戻入	9	10	26	17	30	13	11	8
	(4) そ の 他	6	6	12	17	17	0	14	14
	経 常 収 益 (A)	2,318	2,433	2,541	2,424	2,691	267	2,436	2,461
支 出	1. 医 業 費 用 b	2,381	2,352	2,434	2,497	2,496	▲ 1	2,332	2,319
	(1) 職 員 給 与 費 c	1,352	1,336	1,365	1,435	1,395	▲ 40	1,445	1,445
	(2) 材 料 費	290	293	301	304	325	21	304	305
	(3) 経 費	410	404	422	423	435	12	421	420
	(4) 減 価 償 却 費	319	313	330	325	333	8	152	139
	(5) そ の 他	10	6	16	10	8	▲ 2	10	10
	2. 医 業 外 費 用	140	133	138	126	130	4	141	137
	(1) 支 払 利 息	79	75	70	66	66	0	61	57
	(2) そ の 他	61	58	68	60	64	4	80	80
	経 常 費 用 (B)	2,521	2,485	2,572	2,623	2,626	3	2,473	2,456
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	▲ 203	▲ 52	▲ 31	▲ 199	65	264	▲ 37	5	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)						0		
	2. 特 別 損 失 (E)			3		6	6		
	特別損益(D)-(E) (F)	0	0	▲ 3	0	▲ 6	▲ 6	0	0
純 損 益 (C)+(F)	▲ 203	▲ 52	▲ 34	▲ 199	59	258	▲ 37	5	
累 積 欠 損 金 (G)	3,796	3,848	3,882	4,204	3,823	▲ 381	4,241	4,236	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)	501	662	862	544	960	416	490	450
	流 動 負 債 (イ)	567	569	669	557	605	48	555	606
	うち一時借入金								
	翌年度繰越財源(ウ)								
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 差引 不良債務 {(イ)-(エ)} - {(ア)-(ウ)} (オ)	66	▲ 93	▲ 193	13	▲ 355	▲ 368	65	156
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	91.9	97.9	98.8	92.4	102.5	10.1	98.5	100.2	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	3.5	▲ 4.7	▲ 9.3	0.6	▲ 16.0	▲ 16.7	3.1	7.3	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$	78.6	84.3	85.0	83.1	88.6	5.6	90.7	92.5	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{c}{a} \times 100$	72.3	67.4	66.0	69.2	63.1	▲ 6.1	68.4	67.4	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	66	▲ 93	▲ 193	13	▲ 355	▲ 368	65	156	
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	3.5	▲ 4.7	▲ 9.3	0.6	▲ 16.0	▲ 16.7	3.1	7.3	
病 床 利 用 率 (一 般 病 床)	47.0	53.5	57.8	75.0	83.6	8.6	77.0	79.0	

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収 入	1. 企業債	44	28	95	20	34	14	149	27
	2. 他会計出資金	186	195	198	199	198	▲1	199	199
	3. 他会計負担金								
	4. 他会計借入金								
	5. 他会計補助金								
	6. 国(県)補助金	3	3	32			0	3	3
	7. その他								
	収入計 (a)	233	226	325	219	232	13	351	229
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)								
	前年度許可債で当年度借入分 (c)								
純計(a)-(b)+(c) (A)	233	226	325	219	232	13	351	229	
支 出	1. 建設改良費	47	36	128	20	47	27	143	33
	2. 企業債償還金	299	315	320	322	320	▲2	309	307
	3. 他会計長期借入金返還金	54	59	68	68	67	▲1	68	68
	4. その他								
支出計 (B)	400	410	516	410	434	24	520	408	
差引不足額 (B)-(A) (C)	167	184	191	191	202	11	169	179	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	167	184	191	191	202	11	169	179
	2. 利益剰余金処分額								
	3. 繰越工事資金								
	4. その他								
計 (D)	167	184	191	191	202	11	169	179	
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)									
実質財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
収益的収支	(306) 465	(312) 468	(313) 467	(129) 352	(305) 466	(176) 114	(110) 330	(110) 328
資本的収支	186	195	198	199	198	(0) ▲1	199	199
合計	(306) 651	(312) 663	(313) 665	(129) 551	(305) 664	(176) 113	(110) 529	(110) 527

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰出金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう

4. 一般会計長期借入金の見通し

(単位:百万円)

	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	30年度 (実績)	30年度 (計画比)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
借入額	210	100						
年度末借入残高	730	771	703	635	636	1	568	500

令和元年度の取組みについて

年度	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	5 年 目	備考
	H 28	H 29	H 30	R 元	R 2	
市	新病院改革プラン策定（5年） 重要指標 経常収支比率 人件費比率 病床利用率 常勤医師数	市民病院黒字化 (H30年度予定を1年前倒しで実現)	中央病院黒字化 (H32年度予定を2年倒しで実現)			
庁外	改革プラン策定委員会 (27.11～28.12)	南砺市立病院運営改革委員会 (年2回程度)	H30年8月30日(木) H31年3月28日(木)	R元年9月24日 R2年3月予定	R2年9月予定 R3年3月予定	
庁内	あり方検討委員会 同 幹事会 (27.6～28.11)	南砺市立病院改革推進委員会 同 幹事会	推進委員会 同 幹事会	推進委員会 同 幹事会 9月19日 9月12日		
		同 人事部 業務内容・職員意識・資格調査の実施 給与体系等調査の実施 ・診療部門別集約化の検討と調整 ・人員管理方針策定、病院間人事異動 ・給与、手当、職名、格付けの見直し	・人員管理方針策定、病院間人事異動 ・給与、手当、職名、格付けの見直し	10月～部会開催予定 ・職員研修計画の策定 ・診療部門別集約化の検討と調整 ・職員採用に反映、病院間人事異動 ・給与、手当、職名、格付けの見直し	・診療部門別集約化の実施 ・人事異動の拡大、人事の一元化の実施 (事務部門の集約、戦略部門の充実含む) ・適用の拡大	
		同 予算・会計部会 予算執行体制・財務状況調査の実施 ・業務集約化・強化案まとめ	・予算会計の一元化の調査	10月～部会開催予定 ・調査とシミュレーション	・予算会計の一元化の試行、本格実施	
		同 施設設備部会 委託業務・医療機器調査の実施 ・施設設備修繕計画策定 ・医療機器更新計画策定	・委託契約業務の契約統一化案策定 ・計画的な施設設備修繕の実施 ・医療機器の有効活用	担当者会議、6回開催 ・システム等の整備の一元化の実施		
		同 病床転換部会 3階：活用案まとめ	・病院機能の強化と市の関連施設転換の施設改修の設計	・施設改修工事、12月完成予定		
		6階：年度末までに国の転換案と報酬をもとに活用案の検討	・病院及び施設の公民の役割分担と連携の検討、転換案まとめ ※療養病床の転換の経過措置（6年）	・民間病院との役割分担を踏まえた連携の実施、医療療養病床数の検討	・民間病院との役割分担を踏まえた連携の実施、医療療養病床数の検討	
県	地域医療構想策定（10年）	医療計画策定（5年）				
国	☆ 診療報酬改定（2年）		☆ 診療報酬改定（2年） ★ 介護報酬改定（3年）	☆ 診療報酬改定（消費税改定）	☆ 診療報酬改定（2年）	
備考		高齢者保健福祉計画策定（3年） (地域包括ケアシステムの推進)			次期計画策定	

南砺市病児保育事業の概要

- 目的 南砺市内に住所があり、保育園や認定こども園に通園している乳幼児であって、疾病にかかっている場合、その病気の児童等を保育士（看護師）が保育（看護）することにより児童等の健康を守るとともに、保護者への就労支援等を介した子育て支援を行うことを目的とする。
- 対象者 満6ヶ月児～就学前児童（南砺市内の保育園、認定こども園に通園する者）
- 定員 2名（基本は2名、但し、兄弟での軽度の同一疾病などの場合の受入れは検討事項）
- 利用時間 月曜日～金曜日（土・日・国民の祝日、年末年始 12/29～1/3 を除く）
8時30分～17時00分まで
- 実施場所 南砺市民病院4階 専用病児保育室（2部屋）
- 料金 2,000円（給食費、おやつを含む）
- 利用開始 令和元年10月～（開始予定）
- 担当職員 保育士2名（井波にじいろ保育園付き正職保育士1名、臨時保育士1名）
※利用状況により対応

○利用の流れ

- ・ 疾病に罹患
- ・ かかりつけの病院（小児科医等）を受診し、診断後、診療情報提供書をもらう。
↓
- ・ 利用希望日の電話予約（前日までに）をする。井波にじいろ保育園の担当正職保育士が、病児保育専用の携帯電話により受付する。
↓
- ・ 井波にじいろ保育園の担当正職保育士から南砺市民病院の担当看護師に連絡する。
↓
- ・ 利用当日、診療情報提供書を持参の上、南砺市民病院にて利用申請する。
担当正職保育士が病児保育室の受付で対応する。
↓
- ・ 南砺市民病院医師（小児科医）が預かる児童の当日の容態を診察し、最終判断を「する。（児童受入れの承認）
↓
- ・ 児童の受け入れ、病児保育の実施（利用人数に合わせ、正規保育士、臨時保育士で対応する。看護師は利用時間中における容態観察を適宜行うため、お互いの情報連絡をしっかりと行う。）
↓
- ・ 病児保育終了後、保護者へ児童を引き渡す。様子の伝達、事務処理（納付書発行）、翌日の準備、報告（日誌の記入、看護師への伝達・情報共有）等

南砺市民病院ドクターカー整備計画

整備趣旨：南砺市内で救命処置等の必要な救急患者が発生した救急現場に出場、もしくは患者搬送の救急車に乗車して早期に医療行為を行うことにより、救急医療の更なる充実、地域住民の救命率の向上及び後遺症の軽減を図る。災害発生時や多重事故発生時には、速やかに広域的に医師・看護師を現場に派遣し人命救助を目的とする。また、地域包括ケアの充実ため適切な終末期医療ケアの提供に寄与する。

出動範囲：原則：南砺市・砺波市庄川町

出動対象：県運用ドクターヘリと同時出動（出動適用は県ドクターヘリ運用要領に準拠：ドクヘリ運休時は単独出動）現場直行もしくはランデブー方式とし消防無線を搭載する。また近隣市町村で、災害や多重事故等には行政機関・消防機関からの出動要請により広域的にも対応する。

運用病院：南砺市民病院

出動時間：平日 8：30～17：00（土日・祝・年末年始・整備点検時以外）

要員：医師1名・看護師1名・運転手1名（当分は事務職員が対応）・その他

採用車種：トヨタプラド（4WD：7人乗り）

車載医療機器（予定）：生体モニター（心電・血圧等）AED（徐細動器）血液検査機器等

スケジュール

- 1月ごろ～ 医師・看護師トレーニング開始（救急車実習・中津川市民病院実習）
- 2月末 車両納入予定：順次運行訓練開始
- 3月中旬～ 試験運用
- 4月～ 本格運用開始（上旬：運用開始式典）

